

# 2011年エビ類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

| 年  | 数           |      |       |      |      | 量     |       |       |       |      | 価 格   |       |         |      |  |
|----|-------------|------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|---------|------|--|
|    | 輸           | 入    |       | 東京   |      | 家計消費  | 在     | 輸     | 入     |      | 東京    |       | 消費支出    |      |  |
|    | 活           | 他Eビ° | 冷Eビ°  | 生車   | 冷輸入  | □□□□□ | □□□□□ | 活     | 他Eビ°  | 冷Eビ° | 生車    | 冷輸入   | 生(円)    |      |  |
| 22 | 0.6         | 3.9  | 205.8 | 0.5  | 12.3 | 1,966 | 59.7  | 4,440 | 2,001 | 829  | 4,283 | 1,197 | 3,339   |      |  |
| 23 | 0.4         | 3.9  | 205.6 | 0.4  | 10.9 | 1,918 | 62.9  | 4,402 | 2,071 | 853  | 4,531 | 1,232 | 3,307   |      |  |
| %  | 74          | 100  | 100   | 91   | 89   | 98    | 105   | 99    | 103   | 103  | 106   | 103   | 99      |      |  |
|    | 輸 入 国(冷Eビ類) |      |       |      |      |       |       |       |       |      |       |       | 単位: 千トン |      |  |
| 年  | 中           | ミャン  | ベト    | タ    | フィ   | インド°  | イン    | G     | オース   | カナ°  | エクア   | ロシ    | アルゼン    | 調整品  |  |
|    | 国           | マー   | ナム    | イ    | ピン   | ネシア   | ド     | ランド°  | トラリア  | ダ    | ドル    | ア     | チン      |      |  |
| 22 | 13.8        | 5.9  | 40.5  | 37.7 | 3.5  | 32.0  | 28.3  | 5.0   | 2.1   | 7.1  | 0.7   | 7.9   | 4.9     | 46.6 |  |
| 23 | 17.2        | 6.0  | 34.1  | 36.6 | 3.3  | 30.8  | 30.9  | 4.0   | 1.7   | 6.0  | 1.3   | 7.8   | 9.1     | 49.2 |  |
| %  | 124         | 101  | 84    | 97   | 95   | 96    | 109   | 78    | 82    | 85   | 182   | 99    | 184     | 106  |  |

## 輸 入 の 動 向

23年の冷凍エビの輸入量は、20.6万トンで前年（20.6万トン）並みであった。

世界のエビ生産の既に60%以上を占め、世界的にブラックタイガー（BT）や天然ホワイトを需要面においても凌駕するようになったバナメイは、アジア地区を中心として、その生産規模の拡大もあって、その優位性が更に顕著になっている。特に大手量販店が、バナメイに切り替えつつあり、BTの扱いが少なくなっているなど、生産現場、小売りで売り方の変容も著しい。こうした状況もあって国内搬入もバナメイが主流になっている。

冷凍エビ輸入価格は、853円で浜高の影響で前年（829円）を上回って推移したが、9年続きで三桁（2008年までは900円台）の価格となった。

23年の為替相場（対ドル）は、周年を通じて90円を割る超円高となった。年初から3月までは4月の85円を割ったが4月に一時85円と円安に振れた。そして、7月の中旬まで円高となり80円台で推移した。しかし7月中旬以降円は急騰し80円を割ってからは10月下旬に一時76円台に突入した。その後は若干戻し12月79円台となったものの下半期における基本的な円高傾向は変わらなかった。

主要輸入国は、初めてタイがトップに立ち3.7万トン（前年：3.8万トン）、次にベトナムが病気発生による減産の結果3.4万トン（前年：4.1万トン）で、続いて、インドが3.1万トン（前年：2.8万トン）、インドネシア3.1万トン（前年：3.2万トン）であった。また中国は1.7万トン（前年：1.4万トン）と減少傾向が止まった。

また、赤エビは刺身需要も安定・定着しているが、本年はアルゼンチン産が席卷し9.1千トン（前年：4.9千トン）と大きく数量を伸ばし、ロシアは7.8千トンで前年（7.9千トン）並み、カナダとグリーンランドがそれぞれ6千トン（前年：7.1千トン）、4千トン（前年：5千トン）とカナダ、グリーンランドとも減少となった。

また、近年製品需要も若干停滞気味になっていた調整品の輸入量は、4.9万トンで前年の4.7万トンを上回った。スシエビや尾付きエビ、ボイル、フライ等の衣付き関係はタイ2.4万トン（前年：2.1万トン）や、ベトナム1.2万トン（前年：1万トン）、インドネシア0.6万トン（前年：0.4万トン）、中国0.6万トン（前年：0.6万トン）で本年は各国ともやや増加傾向が顕著であった。

## 在庫量

本年の在庫量は、6.3万トンと前年（6万トン）を上回った。

本年は輸入量が前年並みであったが、浜値の高騰による輸入価格の上昇もあって総じて荷動きは低調で、末端消費が落ちたことが反映されたものである。

本年の冷凍エビ在庫は越年の6.3万トンのほぼ前年並みの低い水準から出発した。一昨年あたりから顕著になった在庫水準の低さが恒常的になっているが、本年5万トン台の月が3ヶ月で昨年より4カ月少なく、徐々に在庫は膨らんだ結果、越年在庫は、6.8万トンとなった。しかも、一昨年あたりから国内搬入の減少傾向は止まり、今年は極端な為替円高もあって、浜高を吸収した格好で昨年並みの冷凍エビの輸入量となった。

## 消費地入荷量と価格

23年の東京消費地における冷凍エビ類の入荷量は、1.1万トンで前年（1.2万トン）を若干下回り、依然漸減傾向が続いている。

本年の東京消費地価格は、1,232円で前年（1,197円）をやや下回ったが、ほぼ輸入価格を反映した格好となった。

本年のエビを巡る特徴は、①本年は周年を通じて為替円高傾向（76円まで進んだ）が昨年以上に顕著で、一定程度浜高を吸収した中での国内搬入であったこと、②アジアの産地価格は前年とは違って一層浜高に触れ養殖BT、インドネシア物（16-20サイズ）が16ドル/kgに達するなど、ベトナム物病気の発生もあり15ドル台を記録するなど高騰した、③国内では東日本大震災による自粛ムードと価格上昇もあって、消費はやや低迷気味であった、④その結果、家計消費も数量、金額ベースとも引続き前年をやや下回った、④本年は下半期にバナメイの大型サイズの登場と、アルゼンチン赤エビの販売が末端では目立って多くなった、ことなどである。